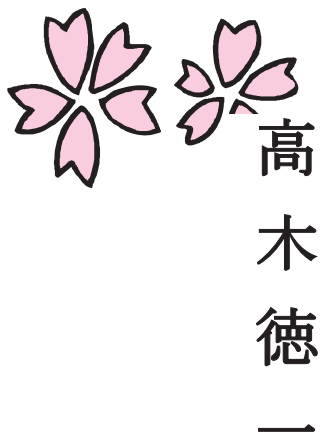
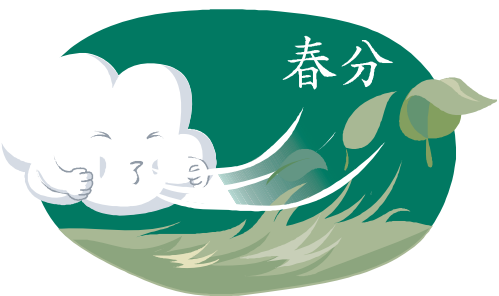




高木徳一

花風に

魅せられて



パリを飛び立ち、アツという間にボルドー上空に銀翼が輝く。

青く煌く大西洋の大海原からジロンド川が東に遡り、ドルドーニュ川とガロンヌ川に枝分かれしている。その流域には畳の目のように並ぶ葡萄の緑葉が光り、古風なシャトーが点在する。

「先程頂いた貴腐ワインの本場に着いたわな」肉厚の耳朶を赤くした内川徹造は窓から見下ろしながらしゃがれ声を出した。

「香りが良くてコクのある甘味で本当に美味しかったです」「そうじゃろ。何しろ世界三大貴腐ワインの一つじゃからな。八月末の収穫期に、川と川との温度差で朝霧が起こり、その湿気のため貴腐菌というカビが発生して実の水分を奪い、糖度を高め、濃厚な極甘になるそうじゃ」

ワイン通を自認する徹造は嫁の花奈に説明した。その隣で、孫の徹太郎が笑顔で頷く。

エアフランス機が着陸し、徹造が杖を付きタラッ

プに出ると、空港内にも葡萄畑が広がり、葡萄王国に降り立ったという実感が胸に響いた。

満員の乗客と共に吐き出された一行は、空港出口で小豆色のタクシーに乗った。徹太郎が、「ボンジュー（こんにちは）、シルヴァブレ（お願いします）」と言い、ホテル名を告げると、大きな鼻に鳥打帽子をあみだに被った中年の運転手が、「ボンジュー、ウイウイ（こんにちは、分かりました）」と唇を動かした。

途中、平屋や二階建てが散在している。

「あそこに桜が咲いておるわ」「お義父様、こっちは紅梅が満開です」「そんな事はありませんだろが」「ひよつとしてあれば桃かもね」「冗談も休み休み言うもんじゃ」「お爺さん、見てよ」

着物の袖口を引っ張られた徹造は反対の窓の外に眼鏡を向けた。

「おお、確かに梅や桃も咲いておるが。おったまげたもんだわ」「同時に咲いてるなんて驚きね、

が胸と肩に映えている。そのラインの色は、青、赤、黒、金、緑で、国際自転車競技連合のマーク。このジャージは『マイヨ・アルカンシェル』と呼ばれ、フランス語で『ジャージ』と『虹』の配列で、『虹のジャージ』の意味である。

真ん中の徹太郎は銀メダリストのジャンと銅メダルを獲得した英国のリチャード・ネルソンに堅い握手をした。

壇上から降りた徹太郎は報道陣に取り囲まれ、通訳を介し、インタビュウを受けた。

「世界一、お芽出度う御座います。優勝の喜びを先ずどなたに伝えたいですか？」「有難う御座います。もちろん、母とコーチをしてくれたお爺さんです。二人はあそこで見守ってくれました」
荒い息遣いで声は上ずり、早口になっていた。

「失礼ですが、世界選手権は初めての出場ですか？」「ええ、そうです。日本では三連覇を遂げ、アジアでは二連覇をしましたが、タイム的に世界

との差がありましたので。今回は試合になるのではと考え、出場を決めました」「自信はどの程度でしたか？」「自己ベストを出せば、七位か八位の入賞は出来るのではないかと。メダルに手が届き、それも金とは自分自身大変驚いています。今でも夢の世界かなと不思議な気分です」「今度は追われる立場として、来年の世界選手権連覇と二年後のオリンピック優勝を期待しております」

「・・・、実はただいまこの時点で現役を引退致します」「えつ、今何とおっしゃいました？」

金髪のダンディーな男が聞き返した。

「本日で現役選手を引退し、コーチ業を勉強し、指導者になります」

周囲はざわつき始めた。

「まだ若いのに何故なんですか？」などの受け答えが続く。

徹造と花奈の脳裏には、それぞれの来し方が静かに流れている。

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。